

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171100314		
法人名	宮利法人有限会社寿老会		
事業所名	グループホーム ひだまりの家 栗橋		
所在地	〒349-1104 埼玉県久喜市栗橋1342-1		
自己評価作成日	R2. 12	評価結果市町村受理日	令和3年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和3年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢者の人権と尊厳を尊重しながら、最後の人生を穏やかにのんびりと過ごせる雰囲気づくりに配慮しながら、ご利用者様と同じ目線に立った介護を実施し、毎日フロアで体操やレクレーションに参加して孤立することなく家庭により近い環境で共同生活を送れるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・利用者に優しく親身なケアサービスのもと、一汁三菜の温かい手作りの食事やおやつ作りなど、食の楽しみを大切にされた支援に取り組み、利用者の家庭的で穏やかな日々の暮らしに結び付けられている。  
 ・運営推進会議は、コロナ禍の中、メンバーが揃っての会議開催に替え、書面にて報告、意見を頂き、事業所運営やサービスの向上に活かすと共に地域に開かれた事業所として質の確保を図られている。  
 ・目標達成計画についても、定期訓練では災害発生を想定し、初期対応・通報・避難誘導訓練に取り組まれるほか、地震・風水害を想定した防災研修や避難場所の検討など、体制整備に取り組まれていることから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「つつがない日々の暮らしをサポートする」の理念のもと3つの介護目標を設定し、目標にむけて具体策を、玄関に入るとすぐ目の前に掲げて職員が意識できるよう取り組みをしています。	「心のこもったあたたかいグループホームを目指す」という理念のもと、利用者との信頼関係とコミュニケーションを大切に、家庭的環境の下、その人らしくいつまでも元気に過ごされるよう支援に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアさんが月1回の割合で訪問して下さっていたが、コロナ禍の中、ボランティアさんの訪問も中止となっています。運営推進会議として文書で施設の内情をお伝えしアンケート等で返答を頂き交流しています。	最近では自粛をされているが、外出の際にはご近所の方と挨拶を交わされている。また、地域の子供達やボランティアの皆さんとの交流再会を楽しみに、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援をされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	全職員で年1回は認知症研修をしています。コロナ禍で地域の人々とお会いする機会が減少しています。電話でのご相談があった時は対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の中、文書で施設の内情をお伝えしアンケート等で返答を頂いています。	コロナ禍の中、メンバーが揃っての会議開催に替え、書面にて報告をし、事業所の取り組みについての意見などをいただき、事業所運営やサービスの向上に活かすと共に地域に開かれた事業所として質の確保を図られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にはいつも出席して頂いていましたが、コロナ禍の中運営推進会議は施設の運営や活動を文書で報告しています。ケアサービスについても協力関係を築いています。	行政の担当者には、運営推進会議でアドバイスをいただいているほか、報告・相談の機会や困難事例の受け入れ時などでコミュニケーションを図られ、良好な連携関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしていませんが、門扉は施錠しています。職員は年2回の研修をして理解を深めていますが転倒・転落リスクがある方が現在いますのでベッド柵をする等、拘束0を目指していますが目標に達していません。	身体拘束廃止委員会が定期的開催されるほか、研修も行われ、全職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、言葉での拘束を含め、行動抑制をしないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待について年1回研修をしています。虐待には暴力だけでなく5つの種類があることを学び、虐待はしていなくてもグレーゾーンがある事も学んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は権利擁護について年1回研修をしています。本年は書面での研修になりましたが、成年後見人を必要とされる方もいるので行政と密に連絡を取り合い支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約についてはインフォームドコンセントを実施、書面にサインを頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との電話や物品搬入時にご意見やご要望をお聞きし、運営推進会議等の中で発信し反映に努めている。	利用者とは日頃の関わりの中で、家族とは面会時や運営推進会議などで意見・要望を聴き取り、職員間で話し合い、事業所運営やサービスに活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議で継続的に課題に上げています。又、時には管理者に意見、要望を伝え業務改善に取り組んでいますが全て反映できるわけではありません。	定例会議や個別面談時などで意見・提案を聴きとられるほか、発言し易い職場環境がつけられ、個別ケア対策やレクリエーション企画など、具現化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の合同会議にてグループ内の各施設の情報交換、配置されている職員の情報交換を行っています。職員は給与水準が他企業と同水準になる事を希望していますが、福祉全般が水準が低いようです。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に組み入れて、法人内で毎月1回実施していますが密集になるので本年は書面での研修が多いです。コロナ禍のため外部での研修は中止が継続されていますので参加は出来ていません。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため外部の研修が中止となり管理者や職員は同業者と交流する機会がありませんでした。一部電話での交流はありますが、今後の再開を期待している所です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご本人の困っている事、要望等アセスメントし、毎日の会話の中で不安な事や要望に耳を傾け、気がついた時は申し送り時に全職員と共有し、安心を確保するため関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時はご家族の困っている事、不安な事や要望等アセスメントし、入居後は2、3か月ごとにモニタリングを実施、ご家族に報告していくことで、よりよい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査やご家族との面談時に得た情報のもと、ご本人、ご家族の意向に添ったサービスを提供できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能に応じた役割を分担し、安全面に配慮した支援をしながらご利用者、職員が同じ目線に立ち、笑顔や笑い声の耐えない心地よい暮らしを実践しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調の変化があった時はご家族に報告しています。ご家族の物品搬入時や、電話で近況をお知らせしたり、年4回ホームだよりをお送りしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所者様の中には、友人が多く代わる代わる面会されていましたがコロナ禍の中、面会禁止になったため、お手紙やメッセージカードが届いていますので読んで差し上げています。	最近では自粛されているが、昔の職場仲間が大勢で面会に見えるなど、友人・知人の面会、親族と一緒に外出をされている。また、季節毎には桜やポピーの花の名所に出かけるなど、これまでの関係が途切れないよう支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立防止のため毎日フロアに集まり、会話や体操をしたり、歌をうたったりしながら、他者と関わって頂いています。意見の合わない方もいるので席替えしたり、声掛けしながらより良い関係を支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域密着型なので、ご近所の方が多く入所されているので退所後もご家族が近況を知らせて下さる方もおります。いつでもご相談や支援の対応に努めております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	孤立して淋しい思いはさせたくないとのご家族が多いです。全職員がご本人との会話の時間を心がけていますが、ご本人の希望や意向の把握をしきれない部分もあります。	利用者とのコミュニケーションと信頼関係を大切に、声かけを行うことで、思いや意向の把握に努められている。困難な利用者についても、日頃の関わりの中で、表情などから汲み取られるほか、家族からの情報提供を得て、利用者本位に検討をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入所当初はソーシャルワーカー、ケアマネジャー、ご家族から情報を得ていますが、生活していく中で、ご本人から得られた情報は日々の申し送りを出し合って把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態を把握して対応、温度板(介護記録)に記録し日々申し送っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的モニタリングやカンファレンスは、職員の密集につながる為、数人ずつで実施したり、モニタリング表を渡して書き込んで頂いたり、職員個々に聞き取りをする等行い、介護計画を作成しています。	利用者や家族から思いや意向を聴きとり、医師・看護師の指示を含め、関係する職員全員で意見交換を行ない、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを介護記録に記入、毎日申し送りして共有しています。2~3か月に1度はモニタリングを実施。大きな変化があった時は新たなサービス計画書を作成しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス計画書は2~3か月に1度は見直しを行って家族に情報提供を行い、入院等の変化があれば月単位でも変更しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんのイベント訪問を楽しみにしている方が多かったですのですが、コロナ禍の収束がかなわず地域資源の利用も減少しています。施設内での行事は実施して日常の変化を支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の医師と提携し、月1回の往診の他、緊急時の往診、薬の処方、提携している歯科医師や歯科衛生士の往診等連携を密にし、適切な医療が受けられるよう支援しています。	入居時に利用者や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をさせていただいている。専門医等かかりつけ医の受診は家族対応を基本とし、必要な情報提供を行ない、適切な診療が行なえるよう支援をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の暮らしの中で、変化があった時は非常勤看護職に相談し提携医師とも連携しながら対処しています。提携医師も24時間対応して下さっていますが看護師が常駐であればいっそう心強いのですが・・		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の入所者様には面会が不可となり、病院の担当の看護師、医療ソーシャルワーカーに電話したり、お会いして状態把握に努めています。施設の受け入れ態勢についても随時お伝えし、円滑な再入所に備えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	提携医師より許可がでない医療処置が生じた場合は終末期ケアは困難です。施設での終末を希望する方もおり、提携医師の判断で対応できる範囲であれば、重度化や終末期でも対応しています。	利用者の症状に合わせ、重度化・終末期についての話し合いが持たれ、利用者・家族と意思統一を図られている。その後も意思確認を進めながら、医師・看護師と連携のもと、重度化や看取り支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルで研修を行っていますがコロナ禍の中、多数の職員が集まる事は避けています。書面で渡して報告書を書いてもらっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回実施しています。今回は施設職員とご利用者様で実施しました。	定期訓練では災害発生を想定し、初期対応・通報・避難誘導訓練に取り組まれている。また、地震・風水害を想定した防災研修や避難場所の検討など、体制整備に努められている。	災害対策には十分取り組まれています。今期、新任職員の採用があったことから、災害時の組織対応力の維持向上に向けた継続的な取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を尊重し入所者様と全職員が同等の立場に立って人格を尊重した介護支援を心掛けています。イヤな気持ちになるような言葉は使わない様職員に指導していますが、中には強い口調の方も耳にします。	「あたたかい言葉づかいを心がけましょう」などの介護目標のもと、排泄介助の際には他の利用者に気付かれぬよう支援をされるなど、利用者の尊厳や羞恥心に対する配慮など、きめ細かな対応がとられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全職員がご本人との会話を大切にしています。その中で1人ひとりから思いや希望をお聞きして、自己決定に至るよう努め、反映に心がけています。食べる事が一番楽しみな様子です。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人で孤立しないように、日常生活動作が低下しないように、毎日の体操の声掛け、又ご自分のペースで役割をもった生きがいのある楽しい生活が送れるよう援助しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族が持参した気候に合わせた服装や身だしなみを整える介助、洋服のコーディネート等支援しています。ご自分で好みの洋服を選択する方も何人かおります。一般に寒がりの方が多いです。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食施設で手作りしているので、皆さん美味しいと言いつつ召し上がっています。盛り付けや後片付け等、残存機能や能力を勘案し、できる事はして頂いていますが出来る方が少ないのが残念です。	利用者の個々の状態に合わせて、食事の準備や後片付けを職員と共に行なっている。イベントでは寿司や鰻重、おやつ作りなどを楽しめるほか、ラーメンのケータリングや牛丼をテイクアウトするなど、食の楽しみを大切にした支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入所者様には基本同じものを召し上がって頂いていますが糖尿病等の病気や体力、身体状態に合わせて分量や食事形態を変えています。水分を欲しがらない方は、声掛けや介助しながら飲んで頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後実施しています。ご自分で出来る方は行って頂いています。義歯の取り外しやうまく歯磨きのできない方は介助しています。舌の汚れがある方は舌磨きも介助しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的声掛けや誘導で陰部の清潔を保ち、パットの使用量を削減しています。失禁体操の理解が困難になって来ている方も多いため、訴え時や定期でトイレ誘導しますが失禁のタイミングが難しいです。	利用者一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、適宜声かけを行ない、排泄の失敗やおむつ類の使用を減らし、トイレでの排泄と自立に向けた支援が為されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	規則正しい手作りの食事と十分な水分補給の声掛け、便秘の解消としても体操は毎日行っています。動きが少ないので便秘になる方もおり、3日以上便秘時は、便秘薬を検討し対処しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の体調に合わせて一般浴又は機械浴をしています。ご自分で洗身出来ない部分を介助しています。拒否がある場合は声掛けを行い強い拒否がある場合は他日に行っています。	利用者個々の力に合わせ、シャワー浴や機械浴を含め、できる範囲で利用者の希望に沿った支援をされている。入浴拒否の方には無理強いすることなく、入浴日を変えたり、声かけを工夫し取り組まれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日皆さんはフロアで過ごしています。体調不良や寝不足の方は昼間でも居室で寝て頂いています。夜間頻尿の方もいるので提携医師と連携し、頻尿薬や眠剤を服用されますが、ご本人、職員もつらい所です。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を温度板(介護日誌)に挿入して、いつでも確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	イベント時は好物の甘い物を買物して召し上がったり、残存能力に応じて食事の配膳や後片づけ等出来る方はして頂き、役割を持つ事で張りのある生活を支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本年はコロナ禍のため屋外の行事は実施できませんでした。外気浴を希望する方は玄関で実施しました。四季のお花見やイベントに出かけることができず、ストレスも見受けられました。施設内で出来る行事に重点をおき実行していました。	現状、外出自粛の為、事業所内での体操や歩行訓練を毎日行ったり、暖かい日の外気浴、家事手伝いのほか、エレクトーン演奏をバックに歌を唄うなど、運動不足解消と気分転換を図られるよう支援をされている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症があるのでお金の管理はトラブル防止のためしていません。ご希望のある方は家族に連絡したり、職員が代替えて購入しお渡ししています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人と家族との直通電話はしていません。ご家族に伝えたい事がある時は職員が中に入り受話器を渡したり、伝言をしています。ハガキ等が届いた時は、職員が読んでご本人に渡しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は皆さんがフロアで過ごしているので、知人や職員がお花を持参して数人に生けて頂いています。日当たりが良い場所では採光に注意し、コロナ禍の中、換気や温度にも配慮しています。	リビングには、鬼や豆など節分飾りや季節の花など、季節感ある装飾が為されている。ソファも置かれ、利用者がゆっくり過ごせるよう工夫をされている。また、換気も定期的に行われ、感染防止対策もとられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お話の出来る人同士で席を隣にしたり、近くにして会話して頂いています。1人ひとりの居室があり、自由に出入りして休んでいる方もいますが入室してもすぐ皆さんのいるフロアに戻ってきてしまう方が多いです。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理タンスやベッドはホームで用意していますが布団等は持参して頂いています。写真や時計、ラジオ、仏壇等ご自分が使用していたものはお持ち頂き、家にいる時と変わらない雰囲気作りを心掛けています。	馴染みの寝具、ラジオや化粧道具などが持ち込まれるほか、思い出の写真や手芸作品などが飾られ、利用者が気分良く、落ち着いて過ごされるよう工夫をされている。また、定期的なりネン交換や清掃も行われ、清潔な環境づくりに努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	40メートルと長い廊下があるので、手すりに掴まり、1人で反復運動をしたり、職員の手引きでトイレや浴室へ歩いている方もいます。徘徊する方は居室に入ったり出たりフロアや廊下を歩いています。		

(別紙4(2))

事業所名:グループホームひだまりの家栗橋

## 目標達成計画

作成日: 令和 3年 3月 3日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	当施設は、ハザードマップ上でも危険区域に入っている。近くに東中学校があるが、車イス利用者が多い。	夜勤は2ユニットで2人の為、水害時は移動が困難になるので、近所にいる職員が支援できるように話し合い、スムーズな避難に繋げる。	・東中学校には、車イス2台乗れるエレベーターがある。前回、避難時は、大変な混雑だったので、早めの避難が必要。 ・宮代本社や姫宮にある系列施設に避難。	12ヶ月
2	20	ボランティアさんが毎日のように来所して下さったり、ご本人馴染みの人が毎週のように面会されていたが、コロナ禍の中面会できなくなっている。	ボランティアさんや、お友達の都合の良い時に、いつでも面会できるようになる事。	リモートで、パソコンと携帯、又はパソコンで面会し、お顔を見ながらお話して頂く準備中。	2～6ヶ月
3	4	コロナ禍のため、文書での施設の内情を発信しているが、発信回数を増加。	関係各位様にお声掛けしてご参集頂き、施設の内情を報告したり、ご意見をお聞きする。	3つの密(密閉・密集・密接)の継続は終了がないと思うので、厳守しながら文書から集会へと導く。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。